

# しずおか 県民児協だより

# 41

第41号  
令和3年2月1日発行

[題字：静岡県民生委員児童委員協議会顧問 天野隆玄 書]

編集発行／静岡県民生委員児童委員協議会 〒420-8670 静岡市葵区駿府町1-70 静岡県社会福祉協議会内 ☎054-254-5224 ㊟054-251-7508

## 藤枝市民児協理事会の活性化を目指して



広報誌「かけはし」

修の手引  
きとして  
活用する  
予定で  
す。「地域  
支援分科  
会」では、  
災害時避  
難行動要  
支援者の  
把握や、

藤枝市は、人口144,175人の市で、高齢化率は30・00%となっております。藤枝市民児協理事会は、地区会長12名、専門部会長6名、主任児童委員連絡会長1名の計19名で構成され、月1回定例会を開催しています。これまでの理事会は連絡事項等の伝達が主でしたが、情報交換や意見交換に時間を割いてほしいとの要望を受け、本年度から理事会内に3つの分科会を設置し、各テーマに沿った施策を推進するための話し合いを行い、誰もが積極的に意見を述べています。「研修企画分科会」では、『民生委員・児童委員活動に関するQ&A集』の編集に取り組み、県から示されたQ&Aに市独自の項目を加え、約130項目についての内容を検討しています。このQ&A集は、各地区定例会等で研

修の手引  
きとして  
活用する  
予定で  
す。「地域  
支援分科  
会」では、  
災害時避  
難行動要  
支援者の  
把握や、

災害時の  
対応等を  
関係機関  
で共有す  
るための  
具体的な  
方策を検  
討してい  
ます。平  
成30年12  
月に『災  
害時にお  
ける民生  
委員・児  
童委員の役割等について』の提言を市長及び自治会連合会長に提出し、自主防災会等との連携体制の強化について確認しており、今回の検討結果についても関係機関に働きかけていく予定です。

「広報分科会」では、平成24年度から定期的に発行している広報誌『かけはし』の編集を行い、本年度は16号・17号を発行します。民生委員・児童委員活動を市民の皆様を理解していただくため、委員活動の様子や役割等について掲載しています。

今後も、分科会で検討した内容が各地区民児協の活動に反映できるよう、活発な議論を重ねていきます。



分科会

## 「民生委員・児童委員活動に必要な 個人情報の提供について」

県民協では民生委員・児童委員が地域福祉推進の担い手として、住民の信頼と期待に応える活動を一層展開するため、活動環境の整備に係る特別委員会を設置し、会長の諮問に基づき令和元年6月3日付けで意見具申を行っています。意見具申の内容は、①活動に必要な個人情報の提供について、②証明事務のあり方についてであり、両項目とも共通して、市町民協から市町行政に協議を働き掛け、市町行政と市町民協の間で書面による合意形成を、全ての市町で進めることを求めました。

しかしながら、静岡県地域福祉課の現況調査（令和2年3月31日現在）によると、令和元年12月の一斉改選や新型コロナウイルス感染症の影響もあって、その取組状況は低調です。

本特集は、活動に必要な個人情報の提供について、三島市における取組状況や効果を紹介し、今後の各市町における取組の参考とします。

### 三島市の概況

三島市民生委員児童委員協議会は、8つの法定地区で構成され、地区委員189人、主任児童委員17人、合計206名を定数として活動しています。

三島市は、県東部に位置し、三嶋大社の門前町として古くから栄えた街です。富士山の伏流水が街中を流れている水の都でもあります。また、みしまコロッケや三島スカイウォーク等全国的な知名度を得ています。

一方、高齢化率は、令和2年3月31日現在で29・3%となり人口の約3割が高齢者という状況にあります。

況にあります。

さらに2025年には、いわゆる団塊の世代すべてが75歳以上になるほか、2040年にはいわゆる団塊ジュニア世代が65歳以上になるなど本市の高齢化は今後さらに進展することが見込まれます。

急速な高齢化や人間関係の希薄が進み、地域の課題が多様化する中、民生委員児童委員への期待は一層高まっています。

### 個人情報の提供 に関する確認書

平成23年の東日本大震災がきっかけで、災害対策基本法の一部が改正され、各市町村が任意で行ってきた、避難行動要支援者名簿の作成が義務付けられました。

それに伴い、個人情報の保護に関する法律が改正され、市町村が名簿に必要な範囲で、個人



市民すこやかふれあいまつり

情報を利用できるようにしました。

平成28年3月に三島市と三島市民生委員児童委員協議会は個人情報の提供に関する確認書を交換しました。

これは、日常業務の円滑な遂行による地域福祉の発展及び災



害時に避難行動要支援者を避難支援するために、三島市と三島市民生委員児童委員協議会が共有する個人情報について定めたものです。

地域における福祉課題が多様化、深刻化する中、地域全体で支援が必要な人びとを支える民生委員児童委員の役割はますます重要となっています。

## 避難行動要支援者との信頼関係が一歩前進

民生委員児童委員活動の一番大きな大切な活動の一つである避難行動要支援者の調査についてです。

民生委員児童委員は、今までも市から提供された情報に基づき、対象者を訪問し調査を行っていました。が、これにより、新たに情報の共有が可能になり、市では、知り得なかつた個人の様子を得ることができ、民生委員児童委員は対象者との信頼関係が一歩前進し、活動しやすくなりました。



自治会連合会と民生委員児童委員協議会による合同役員会議

た。

準要保護児童・生活保護等の情報についても益々、市と民生委員児童委員が情報共有し、活動しやすくなりました。

今後も市、民生委員児童委員及び自治会等と連携し、誰もが安心して生活できる地域づくりを目指していきます。

## 住民との信頼関係が大切

三島市民協会長 宮川紀代美

私たち民生委員児童委員は、地域の住民とよりふれ合い信頼関係を作ることが大切です。

それには、地域の行事である防災訓練・お祭り・居場所等に参加し、住民により近い存在にわゆる「おせっかいおじさん・おばさん」になって、気軽に会話ができて、個々が抱えている問題を把握し寄り添うことが第1です。

子どもの頃は、ケンカをしていと近所の人があたり前のように仲裁してくれました。

昔のご近所同士のつながりを再現すべく、見守りや声掛け、そして、委員同士のコミュニケーションを図り、更には、自治会、行政、社協、地域包括支援センター等と情報共有し、支援に繋げて行きます。

それにより、孤独・孤立が一人でも減少し、「誰もが一緒に笑えて安心して暮らせる地域」になることを目指しています。

## 静岡県地域福祉課から

民生委員・児童委員（以下「委員」という。）の活動は、住民の生活状態を把握し、福祉事務所等の行政機関に協力する業務もあることから、委員の活動に必要な個人情報について、市町から適切に提供される必要があります。

令和元年6月に静岡県民生委員児童委員協議会から市町等に対して意見具申がされたところですが、個人情報の提供には、市町民生委員児童委員協議会と市町との間で、個人情報の提供と管理方法等に関し、書面により合意形成を図ることが前提となります。支援が必要な住民情報をもとに、委員活動が行われることで、住民の福祉の増進や委員の活動負担の軽減にもつながるものと考えられます。三島市の事例などを参考として、市町と市町民生委員児童委員協議会が協力して、個人情報の提供と管理に係る体制整備を進め、住民情報に基づいた委員活動により、地域福祉が一層推進されることを期待します。

# 「コロナ禍における活動について」 長泉町民児協の取り組み

## ◆コロナ禍での 新たな見守り方◆

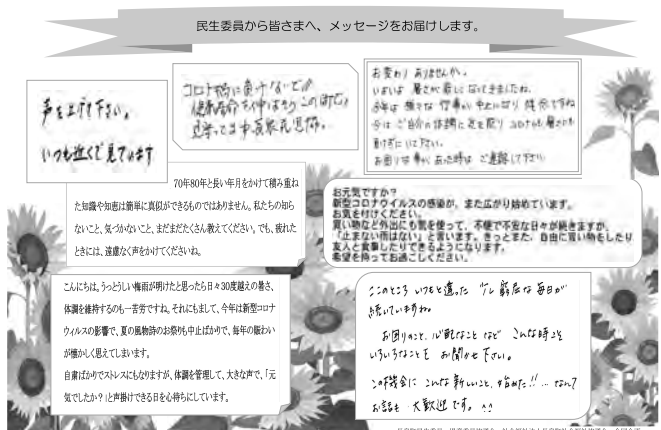
「地域の繋がりを途切れさせるわけにはいかない」長泉町民生委員・児童委員協議会（以降、民児協）と長泉町社会福祉協議会（以降、社協）の思いは同じでした。

月に1度のひとり暮らし高齢者食事会「仲良会」、公民館でのサロン実施、高齢者宅への訪問など、新型コロナウイルスの感染予防のため、これまで定期的開催していた活動は、全て3月より休止せざるを得ない状況になってしまいました。未知なるウイルスに脅えながらの生活が続くなか、「誰とも話す機会がない」、「家族や友達に会えなくて寂しい」といった高齢者の方の不安の声が聞こえてくるようになりました。

委員の間でも地域のために何かできることは無いかと千思万考を繰り返しておりました。とはいえ、

地域の皆さまの安心・安全を第一に地域福祉活動を慎重に進めていかなければなりません。面と向かって声かけの難しいコロナ禍での見守り方について民児協と社協との間で議論を重ね、ひとり暮らしの高齢者が孤独を感じないように「メッセージ集を届ける」という

新たな取り組みが、活動休止から



約3ヶ月経った6月の定例会で決定しました。

## ◆なぜメッセージ集を 届けようと思ったのか◆

食事会やサロンでの交流、委員との面談によるコミュニケーションなど、直接「おしゃべり」を楽しむことが、心身の健康につながり、「言葉」には人を助けることがある事をこれまでの活動で実感しておりました。人と人の心のふれあいが、地域福祉の原点と捉え、直接会話ではなくとも「メッセージ」を届けることで、コミュニケーションが続いていくことが重要と気づいたからです。

## ◆取り組みについて◆

7月から月1回、委員が訪問活動の一環としてひとり暮らしの高齢者を対象にメッセージをお届けする取り組みが始まりました。受け取って気持ちが前向きになれる応援メッセージを、全委員88人から募集し、社協事務局がそれを取りまとめ、6〜7人分のメッセージを季節の花をあしらったメッセージ集として届けています。

※対面での訪問は必要最低限に配

慮しながらの活動。毎月約900枚を発行（11月末時点）

## ◆気持ちに寄り添うメッセージ◆

「みなさん、お元気に過ごすごですか。」「新型コロナウイルス感染症対策の外出自粛などにより、お友達やご親戚の方々ともお会いすることができず大変ですね。」「体調などが崩してはいないでしょうか。」「私たち民生委員もなかなか皆さんの自宅を訪問できず心苦しく思っています。」「お会いすることはできませんが、みなさん、どうしていらっしゃるのかしら」と想いを募らせています。」「お困りのことがありましたらお電話してくださいね。」「こちらは実際のメッセージの一部を抜粋したものです。」

面と向かつては恥ずかしくて言えないことも、手紙だと素直にストレートな想いを伝えられるという委員の声も少なくありません。読んだ時に相手がどう感じるかをイメージして「言葉」を丁寧に紡ぎ、1人1人の顔を思い浮かべながら書いています。

ここで、メッセージを書く際に大切にしていることをご紹介しま

す。

- ・わかりやすく伝える
- ・気持ちが出るくなる話題を盛り込む
- ・面と向かって話しているつもりで「話し言葉」で書く
- ・季節を感じられる挨拶文をつける
- ・張り合いのある生活を送ってもらせるように、コロナ禍に備えたいことなどアドバイスを話題の1つに盛り込む

### ◆新たな活動に対する反響◆

メッセージ集を中心に電話等での会話が生まれるなど、今では、高齢者と委員を繋ぐ重要なツールとなりました。メッセージ集を部屋に飾ったり、毎月ファイルに保管する人がいたりと大切にして頂ける方が目に見えて増えていきます。「読んでいます」と手紙や電話で感想をいただいたり、素敵な絵手紙や川柳のプレゼントをいただいたりと、委員も活動の広がりを実感しています。

また、社協にもこのような感想が届いています。  
 ・誰とも話さなかったが、毎月メッセージを届けてくれるので楽

しみ

- ・コロナ禍でどこにも出かけられず、息子にも会えなかったが、メッセージをもらって元気が出た
- ・嬉しくて毎回丁寧に読んでいます
- ・次の季節の花はなんだろうと考えています
- ・愛情が伝わります、ありがとうございます
- ・励みになりました

### ◆今後の活動の展望◆

今回の新たな取り組みと、民児協と社協の今後の活動の展望について、民児協会長の原孝雄氏はこう話します。

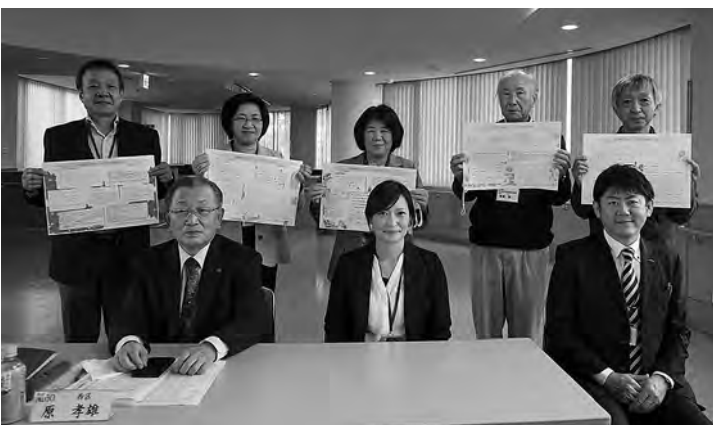
「活動の自粛も感染拡大防止のためには仕方ないことですが、地域との交流の機会が減って寂しく感じている高齢者が多いのが現状です。コロナ禍でもやれることをやっていこうと創意工夫を凝らした社協の企画があり、それをすぐに実行に移せたのは日頃から社協と民児協の連携がうまくとれていたからだと思います。今年度いっぱいにはメッセージを届ける活動を続け、ひとり暮らしでも1人きりではないことを伝えていきたいと考えています。また、心をつな

ぐ活動が一方通行にならないように、メッセージ集のお礼としてこれまでいただいた絵手紙や川柳などをご紹介するなどして皆さんとコミュニケーションのキャッチボールをしていきたいと思っています。そして、感染拡大の状況を考慮しつつ、「仲良会」に代わる食事会以外の方法で高齢者の皆さんが顔と顔を合わせる機会を作れたらと考えています。」

### ◆最後に◆

新型コロナウイルスの影響を受け、一時は委員と地域の高齢者の交流も抑制され、状況確認をはじめとするこれまで当たり前になっていた活動が難しくなっていました。担当する高齢者が施設に入居したことを把握できないなど、これまでの繋がりが途絶えてしまうと感じる状況に委員も不安と歯痒さを覚えました。しかし、この逆境を乗り越えようと模索した結果、新しい目線で独自の地域福祉のスタイルを見出し、委員が高齢者から電話等での相談を受けるなど地域ネットワーク構築による状況確認ができています。また、声をかけ合うことで委員同士の関

係がより深まるなど、地域の絆はむしろ強くなりました。外出する機会が減り、高齢者から運動不足で足腰に自信がなくなつたという声があり心配しましたが、最近では感染予防に気をつけながら散歩を楽しまれる方が増えました。健康づくりに勤しまれることは、前向きな気持ちの表れであると嬉しく感じています。こんな時だからこそ改めて気づく地域コミュニティの大切さ。高齢者が安心を実感できる環境づくりをこれからも目指していきます。





## ひろば

## 笑顔のバトン



伊東市  
民生委員児童委員協議会

竹田 裕愿

ひろよし

十三年前、初めて一人暮らしのAさん(七十代女性)宅を訪問した。その時の第一印象は忘れられない。自己紹介をすると、「いらっしやい」と、笑顔で迎えて下さった。人の心を柔らかく包み込むような笑顔である。常に親しみのある眼差を向け、話される。私の心は緊張から解放されていった。訪問する度に笑顔に抱かれ、温かい心をいただいで帰途につくことができた。

私の担当地区は坂道が多い。高齢者の方は買い物も一苦労である。夏の暑い日、重い買い物袋を両手で持ちながら、坂道を登って来るAさんに出会った。あい変わらずの笑顔がそこにあった。袋を持ってあげ、世間話をしながら登って行った。

そして五年前の夕刻のこと。雨戸も開いていないし、玄関も施錠されたまま、返事も無いと、隣人からの連絡が入った。Aさんの家だ。急いで行き、戸を叩き、大声で呼びかけた。玄関奥から、か細い声が切れ切れに聞こえてきた。急いで救急車、消防車呼び、消防隊員が二階の窓を割って突入し救出。身寄りが県外のため救急車に同乗して病院へ。落ち着いた所で面会。「よかったですね」と声をかける。いつもの笑顔が戻って来た。私も釣られるように、笑顔に。

笑顔で接することを通して、人生の先輩から学ぶことの多さを実感している。笑顔のバトンタッチを願いながら。

## 自己研鑽の場



西伊豆町  
民生委員児童委員協議会

高橋久美子

私は地域内の買い物支援や居場所づくり活動など各種行事に積極的に参加させていただいています。それによって、地域の方々と触れ合い、地域の様子を把握することが出来ています。そして、地域の方々に信頼され気軽に相談をしていただけるように努めています。

民生児童委員の活動は、地域への見守り、相談を受けた時は行政、関係機関とのパイプ役になる活動です。

民児協や町の研修会に参加させていただいています。民児協の研修会では民生児童委員としてやるべきことを勉強させていただいています。また、町の研修会では、例えば災害時における避難計画や避難所運営の研修や居場所づくり、高齢者移動支援セミナーなどを学んでいます。

この活動を通じて、自分磨きが出来る機会を与えていただいていますことに感謝しています。これからも、一生懸命勉強させていただきます。安心安全な地域づくりに少しでも役立ちたいことが出来ますようにと思い、楽しく研修会に参加させていただきます。

新型コロナウイルスの影響で、西伊豆町内では、町民一人ひとりの自覚・努力により、自粛生活を送っています。民生児童委員も難しい状況となっています。

訪問も三密を避け、内容によっては電話で済ませています。今後の活動もどのようしていくのか、工夫が必要かと思えます。

## 「つなぐ」役割が大切



南伊豆町  
民生委員児童委員協議会

渡邊 芳男

南伊豆町の人口は、8,109人。高齢化率は、県内5位の46・4%です。主要な産業は、観光産業です。私の活動は、4期目です。

コロナ禍の中で、外部研修や部会活動が活発にできなくなっています。そんな中で、新任の民生児童委員さんと活動内容を共有していく取組みとして独自の『活動に関するQ&A集』の作成に取り組んでいます。各委員が活動する中で抱えた疑問を民児協に提出してもらい、月例会の中で協議して共通認識をはかっています。このことの積み上げによって、民生児童委員はどのような活動をしたらよいのかの理解を深めていきたいものです。

担当地区のみまもり活動で把握した課題は、役場の担当者に「つなぐ」ことを基本として、各委員が課題を抱え込んで負担にならないように配慮しています。

コロナ禍の中で民生児童委員が、本当に担わなければならない役割が見えてきたのではないのでしょうか。各委員の日常生活を大切にしながら、民生児童委員活動が持続可能な活動として継承されていくように、民児協の活動内容の工夫をしていきたいと思えます。

# ひろば

## 「にこキャラ」がくれたもの



裾野市  
民生委員児童委員協議会

長澤智恵子

主任児童委員として二期目に入りました。素敵な仲間ができ、楽しく活動しています。

通常は、学校・関係機関とのつなぎ役。子どもたちの見守りや学校生活についての相談など「地道なものを」と心がけていますが、年に六回、主任児童委員独自の取り組みとして「にこにこキャラバン」を開催しています。

通称「にこキャラ」は、未就園児を持つ親御さんが対象です。いろいろな活動を通して親子共々に交流を深められる、笑顔にあふれる会にしたいと考え、頑張っています。内容としては、季節の童謡や手遊び歌、体ほぐしのダンスやおもちゃ作り、絵本の読み聞かせが定番ですが、講師を招いて子育てに役立つ情報を提供したり親御さんがリラックスできる実習をしたりもしています。(歯の衛生、防災知識、絵本選び、ベビーマッサージ、リトミック、笑いヨガ、フリートークなど。)

「友達ができた。」「笑ってすっきりした。」などの感想を聞くと、こちらも笑顔になります。やってよかったと思える瞬間です。

そして、何より嬉しいのは「にこキャラ」を通じて私自身がよき友を得たことです。還暦を過ぎてから、年齢も職歴も違う、楽しい愉快な仲間ができました。

## 気が付けば情報難民に



焼津市  
民生委員児童委員協議会

大石 壯吾

年月の流れは速いもので、気が付けば私の民生委員歴も今期で七期目を迎えています。これまでの間にはいろいろな出来事がありました。この度の新型コロナウイルスの蔓延は全く寝耳に水でした。それと同時に「三密」が叫ばれるようになると、これまでの情報伝達が一つの会場へ集めてのものから、WEBやズームなどのオンラインによる個人への伝達へと変わってきていることです。IT音痴の私にとってこの現象は、周囲の人たちとの距離感を広げるばかりでなく、民生委員としての活動のあり方にも戸惑いや不安を感じさせることばかりです。

私が民生委員になりたての頃は、少なくとも自分よりも十歳は上の年代層が支援の対象であり、時代はまだまだアナログ全盛だったと記憶しています。今や民生委員も高齢者が高齢者を支援する老々支援の状態となった上に、好むと否とに関わらずITが主流です。そんな中で私が思うことは、果たして時代についてゆけるかという不安です。人並みにスマホを持つてはいても、それは通話のための道具に過ぎず、オンラインによる情報のやり取りなどは思いもよらないことです。ひょっとすると、自分は時代に取り残された情報難民になってしまうのか。そんな焦りにも似た思いに囚われるこの頃です。

## 地域福祉の現状と民児協の役割



袋井市  
民生委員児童委員協議会

山本 寛

民生委員児童委員の一斉改選から、早一年が経過しようとしています。新型コロナウイルス感染症の影響により従来のような活動が行えず、新任委員の研修の機会が閉ざされるなど、これまで経験したことのない状況の中ではありましたが、やるべきこと・やれることを模索してきた一年でした。

地域を取り巻く構造と環境の変化により、民生委員児童委員の役割が益々重要な位置づけとなっており、地域にとって欠かすことのできない存在となっています。一方、地域や家庭内の環境が複雑に絡み合い、民生委員児童委員だけでは対応が難しい問題が数多く発生しているのが実態です。

少子高齢化が進む中、相談者の代弁者として行政や関係機関に繋げていくことが、民生委員児童委員の役割です。このことを法定地区民児協で周知徹底し、包括的な活動と地区運営が出来るよう努めているところです。

時代の変化とともに機械化・自動化・電子化が進もうとも、地域福祉の活動は支え合う・ふれ合う心と人の手で行っていく必要があります。今後も民生委員児童委員の自覚と誇りをもって、社会的奉仕者としての精神を忘れることなく、充実した地域福祉活動に貢献してまいりたいと思います。

# 令和2年度厚生労働大臣表彰等 被表彰者の紹介 (敬称略)

## ●厚生労働大臣表彰

井川 あい子 (湖西市)

市川 豪彦 (沼津市)

伊藤 泰子 (湖西市)

大木 和美 (沼津市)

川口志津代 (三島市)

袴田 豊昭 (掛川市)

松川 昭宏 (三島市)

山本 寛 (袋井市)

## ●全国社会福祉協議会表彰

民生委員・児童委員功労

杉山 富恵 (富士市)

犬飼 啓介 (熱海市)

松川 昭宏 (三島市)

田中 孝子 (沼津市)

原川 光世 (焼津市)

伊藤 泰子 (湖西市)

菊川 厚代 (藤枝市)

## ●全国民生委員児童委員 連合会会長表彰

優良民生委員児童委員協議会

富士宮市芝川地区

民生委員児童委員協議会

民生委員・児童委員功労者

井川 あい子 (湖西市)

永年勤続民生委員・児童委員

金子 研二 (沼津市)

杉山 静江 (沼津市)

山本 寧子 (沼津市)

秋山佳代美 (沼津市)

佐野 節子 (富士宮市)

栗原 正晴 (焼津市)

前嶋 久 (藤枝市)

芳賀 京子 (藤枝市)

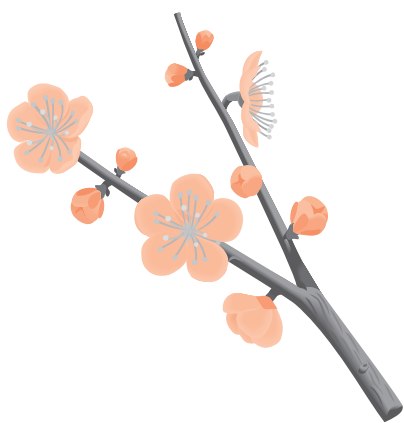
高木 美江 (湖西市)

田中 妙子 (湖西市)

杉浦 登 (湖西市)

豊田ゆみ子 (湖西市)

田村志津子 (湖西市)



## 副会長就任のご挨拶

宮川紀代美

この度、9月11日静岡県民生委員児童委員協議会臨時総会において、副会長に就任いたしました、三島市民児協の宮川紀代美でございます。

平成6年1月1日付で主任児童委員として委嘱され、平成16年12月1日からは地区委員となつて27年になります。

何ぶんにもこのような大役は初めてで、不安でいっぱいですが、これまで続けられたのは、家族や、委員の仲間の支えがあったからと感謝しております。

これからも住民との信頼関係を基盤として、相手の思いを受け止めつつ、委員の仲間、自治会、行政、社協、地域包括支援センター、各関係機関と必要な情報を共有し、望ましい支援につなげていきたいと思っております。

新型コロナウイルスのこの状況の中、感染予防対策の徹底を継続しつつ、杉本会長を中心とした県民児協活動をより一層推進できるよう、女性の立場からの視点で、微力ながら精一杯努めたいと思っております。

これからも皆様のご支援、ご協力をお願いし挨拶とさせていただきます。